

# ひとのかたち

今回の展示では、当館のコレクションから人物画をご紹介します。はじめに、少林山達磨寺を擁する群馬県高崎市にゆかりの深い達磨です。達磨は6世紀初めにインドから中国に渡り仏道を伝えた人物です。揚子江を芦の葉に乗って渡ったという説話が「芦葉達磨」として日本に伝わりました。江戸時代には、壁面九年の達磨と苦海(界)十年の遊女を組み合わせた作品も描かれました。柿本人麿を神像として描いた《柿本人麿像》は、人麿を「人」と「丸」の二文字を使って描いています。《蟻通図》は、蟻通明神前で下馬せず立ち往生している紀貫之と蟻通明神の化身である宮守の姿を描いた作品です。美人画の《納涼美人図》は、夕刻に団扇を持って涼む女性の姿を描いています。門付芸のひとつで、年始にめでたい言葉を掛けながら家々を回る太夫を描く《万才図》では、鐺を打ち鳴らす太夫のそばで犬が吠えています。さて、近現代日本画では、日常のひとこまを切り取った《鏡》や、チベットやシルクロードに取材した作品が描かれました。一方、《源平一ノ谷合戦図》は戦後の日本画として異色といえましょう。武士の姿は平安時代頃の絵巻物に見られますが、近世になると軍記物語の有名な場面を組み合わせた作品が描かれます。明治時代の一時期歴史画がブームとなりますが、第二次大戦前に再び多くの武者絵が描かれました。ともあれ、南画家の作者が挑戦した意欲作であることに間違いはないでしょう。伝統の形式をとらわれず、馬と人が入り乱れる場面をスペクタクル映画のカメラワークを思わせるような視点でとらえた点がユニークです。

No.	作者名	作品名	制作年	技法材質、形状	寸法(縦×横cm)	備考
<b>【描かれた達磨】</b>						
1	ふうがいまくん 風外慧薫	あしはだるまざ 芦葉達磨図	江戸時代	紙本墨画・軸装	80.2×26.5	戸方庵井上コレクション
2	みやもとむさし 宮本武蔵	だるまざ 達磨図	江戸時代	紙本墨画・軸装	81.7×28.0	戸方庵井上コレクション
3	きはらゆきのぶ 清原雪信	あしはだるまざ 芦葉達磨図	江戸時代	絹本墨画・軸装	98.5×42.8	秋池金一郎氏寄贈
4	はくいんまかく 白隠慧鶴	だるまざ 達磨図	江戸時代	紙本墨画・軸装	102.2×40.6	戸方庵井上コレクション
5	やまきりゆうじょ 山崎龍女	ゆうじょ だるまざ 遊女と達磨図	江戸時代	紙本着色・軸装	88.8×38.4	戸方庵井上コレクション
<b>【近世の人物画】</b>						
6	だいしんぎとう 大心義統	かきのみとひとまろざう 柿本人麿像	江戸時代	紙本墨画・軸装	130.2×53.3	戸方庵井上コレクション
7	はなびさいちゅう 英一蝶	ありとおしず 蟻通図	江戸時代	絹本墨画淡彩・軸装(対幅)	各100.3×28.2	清木真敏氏寄贈
8	せんがいぎぼん 仙厓義梵	まんざいず 万才図	江戸時代	紙本墨画・軸装	103.3×28.7	戸方庵井上コレクション
9	うたがわとよくに 歌川豊国	のうりようびじんざ 納涼美人図	江戸時代	絹本着色・軸装	84.7×36.6	戸方庵井上コレクション
10	きくかわえいざん 菊川英山	えんそうまちむすめざ 円窓町娘図	江戸時代	絹本着色・軸装	90.6×27.3	木村東介氏寄贈
<b>【物語を描く】</b>						
11	おかだせいほう 岡田晴峰	げんべいいちのたにかつせんざ 源平一ノ谷合戦図	1949(昭和24)	紙本着色・六曲一双屏風	各168.0×352.2	岡田玲子氏寄贈
<b>【近現代の人物画】</b>						
12	うつみかずこ 内海加寿子	かがみ 鏡	1949(昭和24)	紙本着色・額装	179.1×118.5	内海芳子氏寄贈
13	おかちとやすこ 岡本彌壽子	ひやしず 陽が沈む	1982(昭和57)	紙本着色・額装	130.3×162.1	作者寄贈
14	たかはしつねお 高橋常雄	せいちつゐそう 聖地追想	1980(昭和55)	紙本着色・額装	217.0×162.0	高橋富枝氏寄贈
15	ひらやまいくお 平山郁夫	オアシス(アフガニスタン)	1970(昭和45)	紙本着色・額装	63.8×49.0	上原豊氏寄贈

\* 作品保護のため、会場内の温度・湿度、照度を調整して展示しています。

**【次回予告】 「中国の書画 戸方庵井上コレクションを中心に」 9月15日(土)～10月14日(日)**